

Minami Kyushu University Junior college Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	国際教養学科		
科目名称	異文化コミュニケーション論				授業形態	講義	
科目コード	531760	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○
担当教員名	呉 海鍾					ICT活用	○
授業概要	<p>近年、グローバル化の進展により海外が非常に身近になり、海外に旅行に行く機会や外国の方と接する機会が増え、異文化に接する機会が非常に多くなっている。また、別の視点で見ると、異文化とは、ただ日本と海外との関係のみでなく、自己と他者、自分の生まれ育った地域とその他の地域等の様に国内との関係においても存在している。</p> <p>上記を踏まえ本授業では、映像資料やスライドなどを用いて授業を行うことで、異文化コミュニケーションの基礎概念や、異文化理解に関する基礎的な知識を身につけることを目的としている。また、異文化コミュニケーションに関する知識を身につけるためには、多角的な視点による思考力や発想力や誰とでも良好なラポールが構築できるようなコミュニケーション能力を養うことも必要である。その為、授業を通して、それらの能力も養っていく。</p>						
関連する科目	異文化理解、社会学概論、社会学、統計学						
授業の進め方と方法	<p>授業は、講義とアクティブラーニング参加型を組み合わせた全15回の構成であり、学生には毎回の授業終了後に課題レポートや小テストなどを提出するよう求め、学習の定着とフィードバックを促進する。さらに、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを通じて、学生がトピックをより深く理解し、自己の意見を発展させる機会を提供する。トピックと関連する文献や資料を活用し、学生が自主的に学習できるようサポートします。また、学期末最終課題レポートや発表を通じて、学生の学習状況を総合的に評価する。毎回の授業では、教員がPCを活用してデジタル版の資料を提供し、学生の学習状況を確認するためにユニバーサルパスポートを活用する。さらに、学生はICTを使って調査し、事前に予習を行った上で授業に参加する。そして、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション授業ではパワーポイント（PPT）を使ったKJ法などを用いたアクティブラーニングを実施する。</p>						
授業計画【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、目的、到達目標、評価方法等の説明						
授業計画【第2回】	<p>地図アプリや地球観測ソフトウェアで見る世界の多様な文化：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア大陸の各国の写真をもとに様々な国について学ぶ。 ・各国の写真を観察し、国の特徴や文化的な要素を分析し、その結果をミニレポートにまとめる。 						
授業計画【第3回】	<p>世界の文化探究と写真レポート：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Googleマップを活用して世界各国の写真を観察し、建物や風景、人々の服装や習慣などから文化や生活様式を推測する。 ・最終的には、各国の写真をもとにレポートを作成し、写真から得られる情報を基に各国の文化や社会について述べる。 						
授業計画【第4回】	<p>異文化コミュニケーションの基礎概念①：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の定義について学び、異文化の定義と特徴について議論し、ミニレポートを作成する。 						
授業計画【第5回】	<p>異文化コミュニケーションの基礎概念②：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化的な背景を出発点にして、異文化に対する視点を考える。 ・具体例や比較を用いて、異文化理解の重要性や異なる文化の多様性について議論し、レポートを作成する。 						
授業計画【第6回】	<p>異文化コミュニケーションの基礎概念③：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な文化的側面（言語、宗教、食文化、価値観など）から文化・異文化について考察する。 ・具体的な事例や比較を用いて、異文化間の相違点や共通点を探求し、その結果をミニレポートにまとめる。 						
授業計画【第7回】	<p>異文化コミュニケーションの基礎概念⑤：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの役割と異文化への理解について議論する 						
授業計画【第8回】	<p>異文化コミュニケーションの基礎概念⑥：「イゾラド」をもとに異文化について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イゾラド」と呼ばれる国の文化や社会的な構造を学びながら、異文化理解の重要性や異なる文化間の相互作用について深く考察する。 ・具体的な事例やシナリオを通じて異文化におけるコミュニケーションの課題や解決策を模索し、レポートを作成する。 						
授業計画【第9回】	<p>異文化コミュニケーションと宗教：</p> <p>「砂漠のピンクタクシー」をもとに宗教と異文化について考察し、レポートを作成する。</p>						
授業計画【第10回】	<p>カルチャーショックと適応のプロセス：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルチャーショックの概念と適応のプロセスについて考察し、レポートにまとめる。 						

授業計画【第11回】	違いに気づく： ・文化間の違いに気づき、それらの影響や背景を探求する。その結果をレポートにまとめる。
授業計画【第12回】	異文化の認識： ・固定概念、ステレオタイプ、カテゴリー化について異文化を考察する。
授業計画【第13回】	差別と異文化理解： ・「エリオット先生の差別体験授業青い目・茶色い目」を視聴し、その内容をもとに差別について深く考察する。 ・差別がどのように発生し、どのような影響を及ぼすかを理解し、個人や社会における差別の問題について議論する。 ・さらに、自分たちが差別をなくすために何ができるかを考え、対策を模索する。
授業計画【第14回】	世界の価値観と異文化理解： ・様々な国の価値観から異文化理解について議論する。 ・KJ法を用いてまとめてミニレポートを作成する。
授業計画【第15回】	グループワーク： ・グループワークを通じて「ジョハリの窓」と呼ばれるモデルを使用し、本当の自分を知る。 ・学生たちはお互いに自己開示を行い、自分自身の知識、感情、意見について話し合い、他者からのフィードバックを通じて異文化コミュニケーションに取り組み、KJ法を用いてまとめてミニレポートを作成する。
授業の到達目標	・異文化コミュニケーションの基礎概念や、異文化理解に関する基礎的な知識を身につける。 ・異文化コミュニケーションに必要な思考力、発想力及びコミュニケーション能力を養う。 《到達目標：学士力》では、知識・理解の面では異文化理解に必要な基礎知識を習得し、異なる文化間でのコミュニケーション理論や言語、文化の違いを理解し、円滑な対話や協力が可能となるようにする。一方、汎用的技能面では、異文化コミュニケーションに必要な思考力、発想力、コミュニケーション能力を発展させ、柔軟性や適応力を備えたコミュニケーションスキルを磨くことを目指す。
学修成果との関連	4. 多文化・異文化に関する基本的知識を有する。
授業時間外学習【予習】	毎週の授業のテーマに関連する事項について、書籍や論文、またはインターネットなどを利用して調査し、関連情報を収集してから授業に臨む（1時間程度）
授業時間外学習【復習】	復習は必ず毎週1時間程度行い、次の授業の時にきちんと前回の内容が理解できているようにする。
課題に対するフィードバック	課題などのフィードバックに関しては、授業毎に適宜行う。
評価方法・基準	授業への参加度、小テスト・ミニレポート、グループワーク等（50%）、②期末課題レポートと発表（50%）で算出する。
テキスト	本授業は、テキストを使用せず、適宜関係資料の配布、スライド、ビデオなどを使用しながら進めていく。
参考書	適宜授業で紹介する。
備考	